



特集

子どもの権利条約

有馬師ご遷化20年、
シャンティ設立40年

シャンティ国際ボランティア会 専門アドバイザー
大菅俊幸 曹洞宗総合研究センター 講師

設立以来、シャンティを率いた有馬実成さんが遷化(僧侶が亡くなること)されて早くも20年。『地球寂靜』や『泥の菩薩』を読み直して改めて気づいたことがあります。それは、市民として生きることの意義を繰り返し強調していることです。

有馬さんの考える“市民”とは、「社会が抱える問題をわがこととして捉え、自立的に行動する人」のことでした。一般の人々はもとより、僧職者も“市民”でなければならない、と力説しているところが何とも斬新です。

こんな言葉も目にとまりました。「世界中には貧しい国がたくさんありますが、一番病んでいるのは、実は日本ではないでしょうか。物質的な豊かさを誇りながら、こんなに息苦しい生活をしている国民はいないでしょう。海外でどんなに意味のある活動をして、日本人の意識の覚醒という運動が伴わない限り、海外への逃避に過ぎないと言われても仕方ありません」(『地球寂靜』)。シャンティ設立15周年に際し、国内



タイの難民キャンプで簡易印刷機・謄写版の手ほどきをする有馬さん(1982年撮影)

ネットワークの強化を呼びかけている一説です。今も心すべき言葉ではないでしょうか。

新型コロナウイルス後の世界は、「ほんとうの幸せとは何か」「人間の生死はどのように決まるのか」「人生の意味は何なのか」といった人間の内面に対する関心が深まり、これまで軽視されていた哲学や宗教や文学に対する関心が高まるといわれます。宗教は、神や仏を語るだけでは人々の心を捉えることはできず、現実の社会問題の解決に貢献することが求められるともいわれます。「シャンティが益々必要とされる時代になってきたじゃないか」——。有馬さんが生きていたらこのように檄を飛ばしているかもしれません。

ともあれ、今年はシャンティ設立40年目。東日本大震災から10年、コロナ禍ほぼ1年という節目でもあります。原点を捉え直し、時代、社会からの呼びかけをしっかりと受けとめ、より確かな未来像を描く年にしたいものです。



シャンティは1981年12月の設立以来、教育文化支援に40年間取り組んできました。その活動の根幹には「子どもの権利」が大きく関わっています。「権利」は社会全体が守るべき基準、ルールのことです。しかし、残念ながらすべての国と地域で十分に守られているとは言えない状況があります。子どもの権利について定めた国際条約「子どもの権利条約」と、権利が守られていない子どもたちの現状について、特集します。

Shanti vol.308 CONTENTS

- 4 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会40年記念対談
ネパール事務所 所長 三宅隆史 × 絵本・紙芝居作家 やべみつのり先生
- 6 特集
子どもの権利条約
- 16 世界の絵本を読んでみよう
「心優しいゾウ」
カンボジア 2009年
- 18 世界のおやつ旅
アフガニスタンのおやつ/クルチャ
- 19 世界の現場からAIRMAIL
From 活動の現場 & 現地のスタッフレポート
▶ミャンマー事務所
- 26 Shanti@Tokyo
- 28 シャンティな人たち
栗林 知絵子
特定非営利活動法人 豊島子どもWAKUWAKUネットワーク
- 30 ファインダーをのぞいて
「遊ぶ権利」
- 31 お知らせ
- 32 道
有馬師ご遷化20年、シャンティ設立40年
シャンティ国際ボランティア会 専門アドバイザー
大菅俊幸 曹洞宗総合研究センター 講師



今号の表紙
ミャンマーの日焼け止め「タナカ(Thanaka)」
を顔に塗った子ども(2015年撮影)
©Yoshifumi Kawabata

本がひらく未来

アジアにおける絵本・紙芝居づくりの指導に25年に渡って尽力いただいた絵本・紙芝居作家のやべみつりの先生と、「曹洞宗国際ボランティア会」時代からやべ先生と仕事を共にし、現地での作家育成と作品の制作・出版に携わり続けてきたネパール事務所 所長の三宅隆史が、絵本や紙芝居の持つ力、そしてシャンティが変わらず大切にしていることについて語ります。

子どもの想像力は計り知れない

三宅：子どもって、見たことも行ったことのないところを容易に想像することができやすいね。閉塞的な難民キャンプでも絵本や紙芝居は、そうした子どもたちの想像力を育む心の栄養のようなものだと思うんです。
やべ：子どもの想像力は、大人からは計り知れないものがありますよね。どんな状況でも想像力を働かせて、生きる力にしてしまう。
三宅：やべ先生の『かばさん』も、子どもたちによく人気がありますね。
やべ：難民キャンプの子はカバなんて見た

心の傷の何倍もの楽しい時間が必要になる。その役割を果たすのが図書館だというわけですね。

三宅：子どもだけでなく、大人にとっても同様です。例えば、アフガニスタンでは、先生になる前はムジャヒディン（イスラム戦士）として戦っていたという人が、先生になって子どもたちの前で絵本の読み聞かせをする。最初は戸惑うんですが、実際やってみると子どもたちがすごく笑って喜んでくれる。読み聞かせを通して、先生自身の気持ちも変わっていくんです。

アジアの作品を日本に

逆輸入したい

やべ：作品づくりを通して実感したのは、アジアの人たちは、日本人が失いつつある人間として大事なものをまだまだ持っている。そういうものが絵本や紙芝居になって、逆輸入のようにして見せられたらいいですね。
三宅：先生のアドバイスを受けて作ったアジアの人たちの作品を、今度は日本人たちに見てもらおうと。
やべ：そういう試みもぜひシャンティには期待したい。もちろん一緒に学び合うところから始めてもいいと思うんです。日本人たち

特別連載

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 40年記念対談

ネパール事務所 所長

三宅隆史

絵本・紙芝居作家

やべみつりのり先生

PROFILE

広島県広島市出身。1994年シャンティに入職。海外事業課長、ミャンマー（ビルマ）難民支援事業事務所、企画調査室長、事務局次長、アフガニスタン事務所所長、タイ事務所アドバイザーなどを経て、2017年よりネパール事務所所長。教育協力NGOネットワーク（JNNE）事務局長、開発教育協会理事。



PROFILE

1942年岡山県倉敷市生まれ。1977年より、造形教室「ハラツバ」を主宰。現在は各地で造形遊びや紙芝居作りのワークショップを開いている。絵本『かばさん』（こくま社）、「ふたこのまるまるちゃん」（教育画劇）、「ひとはなくもの」（こくま社）、紙芝居『ほねほねマン』（童心社）など。



アフガニスタン事務所での研修の様子(2007年)



ことがないだろうし、お父さんと小さい子が遊ぶというのおそらく想像しにくいですよ。そんな難民キャンプの暮らしとはほど遠い作品を好きだと言ってくれる子がいるというの、作者にとっては奇跡です。
三宅：普遍的な価値がある本は、国に関係なく人気があります。例えば「おおきなかぶ」はロシアの民話ですが、アフガニスタンでもすごく人気があります。ただ、タリバン時代に偶像崇拜禁止というのがあって、その名残で先生たちからすれば「こういう絵本は偶像崇拜じゃないか」と。だから「そんなことはコランには書いていない」と、イスラム教の教えを踏まえた上で研修をやるんです。

図書館は子どもも大人も自分らしさを取り戻す場

三宅：ミャンマーの難民キャンプでは、紛争や貧困で家族を失ったり友達が怪我をして、心の傷を負っている子どもが大勢います。ある子どもの作文によれば、家では父親に叩かれたり、学校では着ている物が汚いと友達から馬鹿にされたりするけれど、図書館に行ったら気が晴れるんだと。
やべ：つらい経験を乗り越えるには、負った

にとっても、アジアの人たちから学ぶところはきつとたくさんあるはずですから。

粘り強く他の団体ができないことに取り組む！

三宅：シャンティを立ち上げた有馬実成氏は「難民の人たちは着の身着のまままで逃げてくるわけではない。文化という重要なものを持っている」と言っています。それを大切にして、基礎にして、他の衣食住を支援するんだと。
やべ：衣食住はもちろん、文化的な面が人の生きる基礎になるといってはありますよね。

三宅：「本や図書館を通して文化や教育を支援する」というシャンティの活動は、国際協力の中では二の次に考えられがちですけれど、他団体や国連がなかなかできないことをやっていると自負しています。

やべ：敬服しますね。本や図書館の支援というのは、始める時や最初のうちはなかなか成果が見えない。地道に粘り強くものを道を切り開いてきたというところが、僕はものすごく大事だと思います。シャンティの活動あってこそ、たくさん子どもたちが本と出会えて、それだけ世界が広がったということなんですから。



来日したアフガニスタン事務所職員らとの東京での研修(2014年)

子どもの権利条約

「子どもの権利条約」ってなに？

子どもの権利条約は、子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約です。1989年の第44回国連総会において採択され、1990年に発効しました。この条約は18歳未満の人たちを子どもと定義し、子ども自身が権利を持つ主体であると位置づけ、さらに、成長の過程で特別な保護や配慮が必要になる子どもの持つ特徴を踏まえた権利を規定しています。

1959年には「児童の権利に関する宣言」が国連総会で採択され、1978年には、具体的な国際法として子どもの権利を守る条約を作るため、ポーランド政府から「子どもの権利条約」の草案が提出されました。その後、子どもの保護にかかる協定や宣言が採択され、ついに1989年に「子どもの権利条約」が国連総会にて全会一致で採択されました。

前文と本文54条で構成されており、子どもの生存、発達、保護、参加を含む包括的な権利を保障しています。子どもの権利条約ができるまでには、第一次・第二次世界大戦で多くの子どもが命が失われた背景もあり、子どもの権利を守るための様々な国際的な枠組み作りが行われてきました。

日本は条約が発効した1990年に署名し、1994年に批准しています。この条約は、その後、児童労働の制限や少年兵の禁止、児童の人身売買や性的搾取の禁止など子どもたちを守る様々な国際法や国内法の根拠となり、世界の子どもたちの生命と権利、尊厳を守る礎となっています。

「子どもの権利条約」 4つの原則

条約に明記された主な 4つの「子どもの権利」

1 生命、生存及び発達に対する権利 (命を守られ成長できること)

すべての子どもの命が守られ、もって生まれた能力を十分に伸ばして成長できるよう、医療、教育、生活への支援などを受けることが保障されます。

1 生きる権利 すべての子どもの命が守られること



2 子どもの最善の利益 (子どもにとって最もよいこと)

子どもに関することが行われる時は、「その子どもにとって最もよいこと」を第一に考えます。

2 育つ権利 もって生まれた能力を十分に伸ばして成長できるよう、医療や教育、生活への支援などを受け、友達と遊んだりすること



3 子どもの意見の尊重 (意見を表明し参加できること)

子どもは自分に関係のある事柄について自由に意見を表すことができ、おとなはその意見を子どもの発達に応じ十分に考慮します。

3 守られる権利 暴力や搾取、有害な労働などから守られること



4 差別の禁止 (差別のないこと)

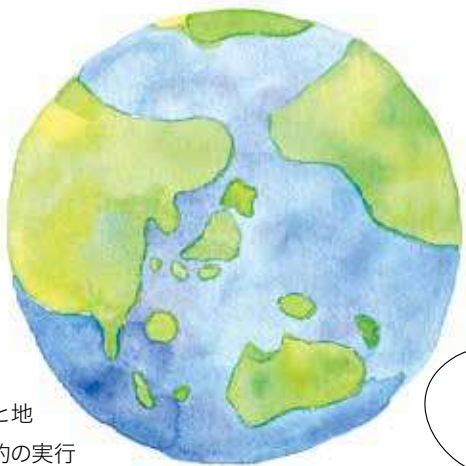
すべての子どもは、子ども自身や親の人種、性別、意見、障がい、経済状況などどんな理由でも差別されず、条約の定めるすべての権利が保障されます。

4 参加する権利 自由に意見を表したり、団体を作ったりできること



世界で最も広く 受け入れられて いる条約

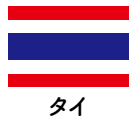
子どもの権利条約は、世界で最も多くの国が締約(署名、批准、加入、または継承)している条約です。2020年末時点で196の国と地域で締約され、締約国は条約の実行と進捗状況の報告義務を負っています。



締約国数＝
196カ国・地域

2020年末時点





無国籍の子ども 「外人」と呼ばれて

タイでは、約180万人もの無国籍者が暮らしています。

ノラトゥーさんはその一人です。「私は高校3年生ですが、年齢は22歳です。11歳の頃ようやく小学校へ通い始めたので、進学するのが遅くなりました。私の村には国籍に関する情報がありませんでした。小学校へ通い始めてから自分に名字がないことに気づき、無国籍であることを自覚しました。国籍がないため保険に加入できず病院での治療費が高額になります。また、行動範囲に制限が設けら

れています。「外人」や「エイリアン」と呼ばれ、からかわれたこともあります。それでも、カレン族として生まれたことは私の誇りです」



ノラトゥーさん

オサレーさんも同じカレン族で国籍がありません。「私はミャンマー出身で、幼い頃に家族とタイへ来ました。その後、両親が離婚したため母親に引き取られました。3年間はお寺に預けられました。そのため、学校へ通い始めたのが遅くなり、現在19歳ですが中学3年生です。母親、兄、弟も私と同じく無国籍です。物心ついたときに知り、国籍がないので「外人」と言われてからかわれたことがあります。学校の奨学金に申し込むことができず、行事やクラブ活動に参加できないこともあります。それでも、カレン族として生まれたことを悲しいと感じたことはありません」



オサレーさん



保護者がいない子ども 慢性的に不足する 孤児の養育費

2012年の民主政権樹立後、ミャンマーは経済発展が急速に進行していますが、子どもの福祉の整備が遅れ、十分な予算が充てられていません。特に孤児への支援不足が社会問題となっています。ミャンマーでは、寺院が孤児院を運営しています。保護者のいない子どもたちはこの孤児院に預けられ、同じ寺院が運営する学校へ通うことができます。しかし、孤児院も学校もその運営費用は住民の寄付によって賄われており、慢性的な財政難に悩まされています。孤児の数に対して寮などの家屋が足りていないため、シャンティは2014年より寺院学校と孤児院の寮・校舎の建設支援を行いました。



少数民族の子ども 先生が話す言葉が 分からない

ラオスの北部農村地域には、公用語であるラオス語を母語としないカムやモンなど少数民族の人たちが多く住んでいます。家での会話はカム語、モン語などの言語が使われますが、学校での教育はラオス語で行われ、子どもたちは学校に入ると母語ではないラオス語で勉強することになります。特に低学年の子どもたちにとってはとても大変なことで、先生とのコミュニケーションがうまくいかず、理解不足による学力の低下や退学の原因にもなっています。ラオス語の読み書きができないと、将来の就労に苦労したり、人生の選択肢を狭めたりすることにもなります。



子どもの権利が 守られていない子どもたちのケース

シャンティが活動を行っている各国・各地域では、国際子どもの権利条約で規定された「子どもの権利」が守られていないケースが少なくありません。



学校に通うことができず働く子ども 他の子どもたちと 同じように学校へ行きたい



10歳のハミダは学校に行っていません。9人家族で、父、母、3人の姉と3人の弟がいます。住んでいた地域での紛争が激化し父は仕事を失いました。家族は食べることができなくなり、州都のジャララバード市に移りました。劣悪な環境の借家に住んでいます。借家の家賃が高く、日中は町で卵を売って家計を助けています。本当は他の子たちと同じように学校に行き、きれいな服や靴を履きたいけれど、家が貧しくて叶いません。学校に戻れるように、シャンティの子ども図書館で、図書館員や友達から文字の読み書きを教えてもらっています。

第29条 教育の目的

(「子どもの権利条約」日本ユニセフ協会抄訳)



教育は、子どもが自分のもっている能力を最大限のばし、人権や平和、環境を守ることなどを学ぶためのものです。

第28条 教育を受ける権利

(「子どもの権利条約」日本ユニセフ協会抄訳)

子どもは教育を受ける権利をもっています。国は、すべての子どもが小学校に行けるようにしなければなりません。さらに上の学校に進みたいときには、みんなにそのチャンスが与えられなければなりません。学校のきまりは、子どもの尊厳が守られるという考え方からはずれるものであってはなりません。



第22条 難民の子ども

(「子どもの権利条約」日本ユニセフ協会抄訳)

自分の国の政府からはく害をのがれ、難民となった子どもは、のがれた先の国で守られ、援助を受けることができます。



「子どもの権利」と シャンティの活動

「子どもの権利条約」に定められている子どもの権利を守るため、シャンティが行っている活動をご紹介します。

ミャンマー
(ビルマ)
難民キャンプ



コミュニティ図書館運営

2000年から7つの難民キャンプ内でコミュニティ図書館を運営しています。難民キャンプは閉ざされた環境であるためキャンプ外の情報を得る手段が限られています。キャンプで暮らす幅広い世代に必要な情報を届けられるよう、学習用の書籍を配架したり、キャンプ外や帰還に関する情報が閲覧できるパソコン端末や情報掲示板を設置してきました。図書館スタッフによる読み聞かせやお絵かきなどのイベントを常時開催し、住民が安心して楽しめる憩いの場となるよう努めています。

学校建設

ミャンマー

ミャンマーでは2013年から公立小学校の学費が無償になりました。しかし、制服代や文具代を払わなければならない、それらを払えない貧困家庭の子どもたちは公立小学校に通えません。そのような子どもたちのために、寺院が学校を開き、完全無償で教育の機会を提供しています。寺院学校では公立小学校と同じカリキュラムの授業を受けることができます。シャンティは老朽化した寺院の学校を建て替えるなどの支援を行ってきました。



スラムでの図書館活動

カンボジア



カンボジアの首都プノンペン郊外には数百カ所のスラムが存在しています。スラム内のインフラは十分に整備されておらず、公共サービスへのアクセスが制限されています。特に教育へのアクセス不足が深刻で、スラム居住者の教育レベルは、スラム外の都市部や地方農村部の住民よりも低い状態です。シャンティは、コミュニティ図書館の運営および移動図書館活動を行い、住民に図書を通じた学習機会の提供や識字教室の運営などを行ってきました。

難民キャンプで暮らす子ども
ヘイ・タ・ゲイさん
(11歳・小学6年生)



図書館には週に4回通っています。たくさんの種類の本を読みますが、とくにカレンの民話がお気に入りです。『タ・クロ・メ』という本は、主人公の女の子が最愛の動物を亡くしてしまうおはなしで、私はいつも悲しくなりますが、同時に愛の深さも感じられて大好きです。また、図書館員の読み聞かせや折り紙も他にはない活動で面白いです。コミュニティ図書館を通じて、知識だけでなく色々な感情を経験できています。



①子ども図書館で刺繍を楽しむ子どもたち
②レクリエーションゲームの様子
③お絵かきプログラムの様子

アフガニスタン

子ども図書館運営

ナンガハル州ジャラバード市で「子ども図書館」を運営しています。子ども図書館では、自由読書や貸出といった図書活動や学習教室のほか、お絵かきや伝統的な詩の朗誦などの文化活動、縫製教室も行っています。また、

月ごとにテーマを決めてイベントを行い、読み聞かせや寸劇、レクリエーションゲーム、伝統音楽による舞踊など、子どもたちが主体的にプログラムを考えて実施しています。



出版した絵本を読む子どもたち

ネパール

「子どもの権利」と
シャンティの活動



地域学習に取り組む子どもたち

先住民地域における地域学習カリキュラムの開発・普及事業

ネパールの学校では、自分のふるさについて学ぶ地域学習という科目がないため、ほとんどの学校で実践されていません。シャンティは、先住民が多く居住するマクワンプル郡ラクシラン農村自治体の全53校を対象に、地域学習の授業を普及する事業を開始しました。地域学習のカリキュラムや教科書を開発し、教員研修を行います。また100冊の本を配架した図書コーナーも全教室に設置し、読書を推進します。

ミャンマー
(ビルマ)
難民キャンプ

母語での出版活動

難民キャンプで暮らす人々は、必要最低限の物だけを抱え、タイ・ミャンマー国境を越えて逃れてきました。そのため自分たちの文化を伝える物も手段ありません。そのような状況において、母語の絵本が自分たちの文化を後世に伝え、アイデンティティを保持する手助けになるように、2001年から難民たちの母語であるカレン語と、帰還先のミャンマーで使われるビルマ語での絵本出版活動を実施しています。これまでに現地に伝わる民話などを題材に、絵本やカレン語の教科書を97タイトル出版してきました。

子ども図書館での活動に参加した子どもの声

私はアリアナ、10歳です。家では母の手伝いや妹と遊んでいます。以前住んでいた地域には図書館がなく、今ジャラバード市に住んで毎日子ども図書館に来ることができてとてもうれしいです。子ども図書館では、おはなしの読み聞かせや手芸をするのが好きです。子ども図書館のイベントにも何度も参加しています。他の子たちとゲームをして遊んだりもします。お気に入りのゲームで遊ぶときは、とても幸せな気持ちになります。



第31条 休み、遊ぶ権利

(「子どもの権利条約」日本ユニセフ協会抄訳)

子どもは、休んだり、遊んだり、文化芸術活動に参加する権利をもっています。



第30条 少数民族・先住民の子ども

(「子どもの権利条約」日本ユニセフ協会抄訳)

少数民族の子どもや、もともとその土地に住んでいる人びとの子どもは、その民族の文化や宗教、ことばをもつ権利をもっています。



カレン語とビルマ語の出版絵本

シャンティにとっての 子どもの 権利条約

シャンティ国際ボランティア会
ネパール事務所 所長 三宅 隆史



「おおきなかぶ」福音館書店 ©Yoshifumi Kawabata

彼の話はシャンティの図書館活動に
とっての子どもの権利条約に二つの意義
を与えている。第一に、図書館はそれ自体
が子どもの権利である。国際協力では、
食料や保健、水・衛生、居住が優先され
がちであるが、子どもの権利条約は、教

育や文化、余暇も大切な子どもの権利で
あるとうたっており、図書館はこれらを
保障する場所である。
第二に、図書館は子どもの権利保障の
ための場である。図書館は子どもの権利
条約の肝である子どもの生存、発達、保
護、参加を保障する。生存については、例
えばネパールのコミュニティ図書館では母
親学級が開かれ、保健、衛生、栄養、子
育てについての正しい知識を母親が得る
こと、乳幼児の生存に寄与している。発
達については、子どもが読書や読み聞か
せを通じて知識だけでなく、想像力やコ
ミュニケーション能力、他者と協力する態
度が育まれる。保護については、アフガニ
スタンのような紛争下の国では、図書館
は安心して有意義な時間を過ごすことが
できる「居場所」となっている。最後に参
加については、図書館は踊りや音楽など
の文化活動に参加して、絵画や劇、詩を
通じて自分の意見を表現する場となっ
ている。

2000年10月、私はミャンマー（ビル
マ）難民キャンプで最初のコミュニティ図
書館の設立を準備していた。図書館の設
立・運営を担う、教育関係者や女性、青
年の代表で構成される図書館運営委員
会のメンバーとの話し合いを開いた。「こ
れから皆さんと作る図書館にどのような役
割を期待しますか。図書館はどんな場所
であってほしいですか」と私は質問した。
ある青年が「僕は図書館に人権を期待し
ます」と答えた。教育の改善や文化の継
承が図書館の役割だと考えていた、当時
の私は彼の考えに驚き、「それはなぜで
すか」と聞いたところ、彼は「私たちはタ
イの難民キャンプに逃れてくるまで、（当
時の）ビルマ軍事政権によって、迫害や弾
圧、暴力、表現の自由の侵害を受けてき
ました。ですから、難民キャンプの図書
館は、すべての人の権利を大切にする場
所であってほしいと願っています」と話し
た。

シャンティにとっての図書館は、子ども
が生き、育ち、守られ、参加することがで
きる空間、時間、仲間がある子どもの「居
場所」であり、この考えの基礎に子ども
の権利条約がある。

ま
と
め

「子どもの権利条約」を もっとよく知るための6冊

「子どもの権利条約」についてもっと
詳しく知りたい方におすすめの書籍
を集めました。



『ビジュアル版 子どもの権利宣言』

シェーナ出版社(編集)、
遠藤 ゆかり(翻訳) /
創元社 2018年

10歳以上の子ども向けにわか
りやすく書きなおされた条文
に、30人の現代アーティストに
よる美しいイラストが添えられ
た、子どもも大人も「子どもの権
利」に親しめる一冊。



『子どもの権利ってなに？』

アラン・セール(著)
オレリア・フロンティア(イラスト)
福井 昌子(翻訳)
反差別国際運動(IMADR)(監訳)
／解放出版社 2020年

子どもたちに伝わるように、直接
話しかけるような言葉遣いで書
かれ、生き生きとしたイラストか
ら、子どもの権利が大切である
ことが伝わってくる絵本です。



『国連子どもの権利条約と 日本の子ども期』

—第4・5回最終所見を読み解く—

子どもの権利条約市民・
NGOの会(編集) /
本の泉社 2020年

2019年3月に国連子どもの権
利委員会によって公表された
「日本政府第4・5回統合報告
審査に関する最終所見」につ
いて書かれた書籍です。



『子どもの権利条約 ハンドブック』

木附 千晶、福田 雅章(著)、
DCI日本=子どもの権利のための
国連NGO(監修) /
自由国民社 2016年

条文解説が難解な専門書が多
い中、子ども向けにわかりやす
いよう、条文の内容に関連した
エピソードを通じて紹介する形
になっています。



『はじめまして、 子どもの権利条約』

川名 はつ子(監修)、
チャーリー・ノーマン(イラスト) /
東海教育研究所 2017年

イラストを使用してビジュアル的
に訴えつつ、条文の意味や、子
どもの置かれている立場・状況を
わかりやすく紹介しています。



『世界中の子どもの権利を まもる30の方法：だれひとり 置き去りにしない!』

甲斐田 万智子、
国際子ども権利センター(編集)、
荒牧 重人(監修) /
合同出版 2019年

世界の子どもたちがいま直面し
ている問題を解決する30のア
プローチを紹介し、SDGs(持
続可能な開発目標)を子どもと
学べます。

心優しいゾウ

1



ブノン・バケン山では、観光客がゾウにまたがり頂上を目指します。
ソペア君もゾウに乗りたかったのですが、切符を買うお金がありません。

2



ソペア君は歩き出したゾウたちを追いかけました。
すると突然、ゾウが立ち止まってしまいました。

3



よく見ると、年老いた一羽の鳥が、ゆっくと道を渡っているところでした。
ソペア君は鳥を巣に戻してあげました。ゾウたちはまた歩き出しました。

4



ソペア君は頂上に着いたとき、転んでしまいました。
それを見たゾウは鼻を使ってソペア君を背中のかごに座らせました。

5



観光客が怪我の手当てをしてくれましたが、痛みは気になりませんでした。
それよりも、ソペア君はゾウのかごに乗れたことがうれしくて、仕方ありませんでした。

6



ソペア君はゾウにバナナとサトウキビをあげました。
「ゾウさん、ありがとう！
とても心が優しいですね。
ずっと忘れません」

Hot Topics



1 読み聞かせ動画を配信

感染予防のため自宅でのリモートワークを取り入れています。学校を訪問する移動図書館活動の代わりに、読み聞かせ動画を配信しています。動画配信は活動地以外の子どもたちにも楽しんでもらえるため、続けていきたいです。



3 読み聞かせコンテストを実施

東西バゴーと寺院学校、公立学校の教員を招待し、読み聞かせコンテストを開催。イベントには教員80人、生徒630人が参加しました。全国的にも読書に関するさまざまなイベントが開催され、国としても若い世代が読書の習慣を身に付けることを目指しています。

2 オンラインプラットフォームを使用したトレーニング

私たちのプレゼンテーションの動画を共有する形での研修を実施。インターネットの接続を心配することなく、簡単にプレゼンテーションの動画を好きな時間にダウンロードして見ることができるようになりました。



ミャンマー事務所
学校図書チームアシスタント
プロジェクトコーディネーター
ティン ティン ミヤさん
Thin Thin Myat

PROFILE

大学で英語の学士号を取得した後、2016年6月入職。公共図書館のスタッフとして3年間働いた後、学校図書チームのアシスタントプロジェクトコーディネーターになり、現在に至る。



From Myanmar

ミャンマー事務所

新型コロナウイルス感染拡大第二波にともない、9月から再びすべての学校が閉鎖されているミャンマー。オンラインプラットフォームを使用した研修や来年のための準備など、今できることを進めています。



パンデミック終息後のため
今、できることを

ミャンマー事務所では2018年から2020年にかけて、バゴー地域の公立学校28校の図書館を支援してきました。ミャンマーでは2020年6月頃まで、新型コロナウイルスの感染拡大は落ち着いており、対象校で使用できる図書や本棚、読み聞かせに使う道具などを準備していましたが、

国内での感染拡大を受けて、学習が制限される子どもたちへの機会提供と、パンデミック終息後にスムーズな活動再開ができるよう読み聞かせ動画を作成し、FacebookやYouTubeに投稿してきました。9月以降、感染が拡大し、活動の多くは中断せざるを得ませんでした。毎年行っている教員の学校図書館研修はオンラインに切り替えて実施することができました。参加者の満足度はとても高く、現在はフォローアップ研修の準備を進めています。

オンラインにすることで
すべての子どもたちが
楽しめるように

学校図書館を継続することは、21世紀スキルに基づいた新カリキュラムで学ぶ子どもたちに質の高い教育を提供することを可能にし、たくさんの方のスキルを身に付けた生徒を育てることができると信じています。このパンデミックが終息し、すべての活動を再開できることを願っています。

From Myanmar / ミャンマー事務所 現地スタッフリポート

ミャンマー事務所で図書館事業を担当する現地スタッフの1日を紹介。コロナ禍にありながらも、読書推進のため日々の業務へ粛々と取り組む姿が見えました。



私が住んでいるのは
こんなところ

農業国のミャンマーは、米、野菜、豆が豊富。とても親切で暖かい国民性で、人助けの精神が根付いています。私はミャンマーで有名な観光地で、世界遺産の古代都市の1つであるバガンに旅行するのが好きです。



人口の約90%が仏教徒のミャンマーは、世界遺産の古都や伝統的なお祭りや有名な国です。ユネスコ世界遺産に登録されている古代都市のひとつ、バガンには有名な塔や美しいエーヤワディ川、美味しい食べ物もたくさんあります。私は4人家族で、いつも週末は故郷に帰っていたのですが、今は新型コロナウイルスの影響で行くことができなくなってしまいました。
シャンティで働き始めて2年が経ちました。以前は多くの人の前で話すことに苦手意識がありました。研修や読み聞かせへの参加を経て今では大勢の前でも自信を持って話すことができるようになりました。

私の お気に入り

「父にもらった時計」

父が誕生日プレゼントにくれた時計がお気に入り。職場に行くときはいつも身に付けています。



ミャンマー事務所から
図書館事業スタッフの
ノウェオサンダーさんがリポート！



ノウェオサンダーさん
Nway Oo Sandar

PROFILE

1996年生まれ、西バゴー地域出身。ビーの大学を卒業後、2018年に図書館事業担当として入職。読書好きで、学校や村の子どもたちに読み聞かせをするのが大好き。



私の1日を
紹介します！

舞台の
ウラ側



1

1.ストーリーとイラストの決定

児童書出版委員会は作家5人、イラストレーター5人、編集者5人で構成され、ミーティングは年4回。初回はストーリーについて話し合い、2回目で出版に向けたお話の選定と担当メンバーの選出。3回目にお話の内容について専門家からフィードバックをもらい、初稿を訂正し、4回目再度フィードバックを受けてお話とイラストを修正しました。

2.レイアウトデザイン・編集作業

ストーリーとイラストの最終校正が終わったら、ヤンゴン市内の複数の印刷会社に連絡を取ります。印刷の質や料金を確認して発注する会社を決めます。その後は、委員会メンバーが作成したストーリーとイラストのレイアウトを相談したり、編集作業をしながら進めていきます。



2



3

3.最終修正後、印刷作業へ

サンプル本を専門家に確認してもらい、フィードバックをもらった後、印刷会社としっかりと修正作業を行います。そして、すべての編集作業が終わり、印刷して、無事に納品しました。（※写真は紙芝居を確認している様子）

From Myanmar / ミャンマー事務所
ものづくりの舞台ウラ
「子どもたちのための絵本」づくり

学校建設による学習環境の改善や教育機会の提供、図書館の改善のほか、子ども向けの本の出版を行うミャンマー事務所の活動のウラ側を紹介します。



オモテ
舞台



制作秘話

絵本づくりのスキル向上が課題

出版が円滑に進むよう、児童書出版委員会のメンバーや印刷会社と連絡を密に取り合い、よい関係を築くよう努めてきました。しかし、委員会メンバーは各分野の専門家であるため、納得する質に到達するまで編集やレイアウトを修正するのにとても時間がかかり、計画通りに終えることも精いっぱいです。今後は、より多様な内容の絵本作成にチャレンジしていくためのトレーニングも行っていきたいです。

子どもたちにストーリーへ興味を持ってもらい、絵本を読むきっかけをつくりたい

ミャンマーの書店に置かれている本の多くは大人用のもの。子ども用は、コミックや子ども新聞程度で、質の良い絵本や児童書は圧倒的に少ないのが現状です。シャンティでは、質の高い絵本を出版し、読書や読み聞かせに活用しています。シャンティが出版した絵本は利用者の読書スキルの向上だけでなく、多様な内容で子どもたちの創造性や思考力を育てることも役立ちます。子どもたちは、楽しみながら本を読む機会が増えたことでより読書に関心を持つようになりました。読書により知識量が増えたり、学校の学習に集中できるようになったことを喜ぶ声も届いています。



ウィズコロナ時代は
ワークショップも
オンライン化



2020年は、新型コロナウイルスの影響でワークショップの開催形態もオンラインにシフトしました。オンラインだからこそ海外事務所と中継をつなぐなど、これまでできなかった取り組みにチャレンジしています。

自宅でできる ボランティア活動のニーズ

在宅で過ごす時間が増え、家族と参加できるプログラムを探す方、社員が自宅でできるボランティアプログラムを探す企業担当者など、「絵本を届ける運動」の参加方法も変わってきました。こういう状況ですが、海外の子どもたちが学ぶ環境を守りたいと、全国から支援の声が届いています。



- ①「はらべこあおむし」 偕成社
- ②「ガンビーさんのふなあそび」 ほるぷ出版
- ③「いる」 金の星社

鈴木さん
お気に入り
アイテム

ポーチ類

オンラインでの会議が増えたので、必要なものはポップな絵柄がかわいいうクラフトエイド商品「ラオスの森ポーチ」に。事務所内で必要なものを持ち運ぶポーチも欠かせません。



PROFILE

鈴木 晶子さん

大学卒業後、緊急救済室に入職。国内外の災害支援を行った後、2007年よりカンボジア事務所、2010年よりタイ国境難民キャンプの担当を経て、2015年より現職。最近では自宅での時間を快適に過ごすことを大切にしています。



現地職員の想いや子どもたちの真剣なまなざしに触れ「伝えること」に取り組み

文化の多様性や個人のアイデンティティを大切にしながら社会を築く姿勢に共感し、入職したボランティア。入職後、海外事業への想いを抱きながら、最初に取り組んだのは国内の緊急救援でした。そこで感じたのは国内・海外どちらか一方での一つの軸でした。その後、バキスタンは北東部地震支援やインドネシアジャワ中部地震支援、カンボジア事務所駐在、東京事務所の海外事業担当、東日本大震災後の緊急救援を経て、2015年より広報課(当時)で勤務しています。

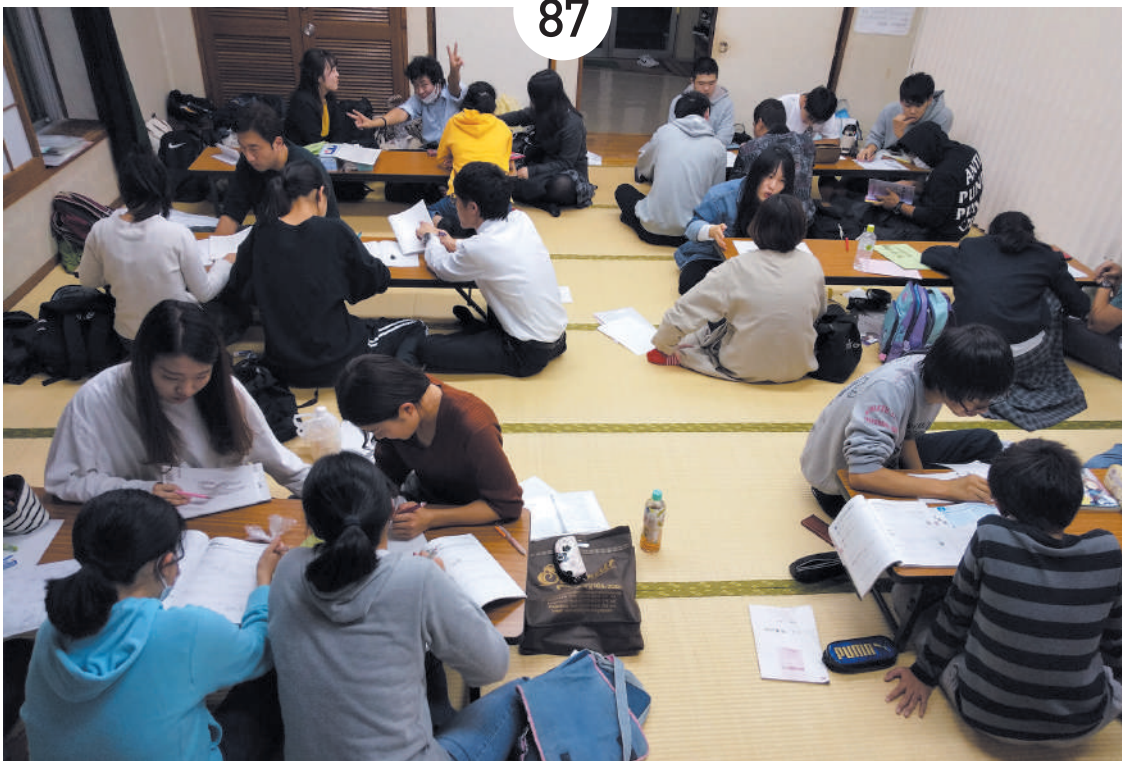
広報・リレーションズ課は、イベントや講演会の実施、本の出版を通してボランティアの活動を伝えるなど、参加していただく

文化の多様性や個人のアイデンティティを大切にしながら社会を築く姿勢に共感し、入職したボランティア。入職後、海外事業への想いを抱きながら、最初に取り組んだのは国内の緊急救援でした。そこで感じたのは国内・海外どちらか一方での一つの軸でした。その後、バキスタンは北東部地震支援やインドネシアジャワ中部地震支援、カンボジア事務所駐在、東京事務所の海外事業担当、東日本大震災後の緊急救援を経て、2015年より広報課(当時)で勤務しています。

広報・リレーションズ課は、イベントや講演会の実施、本の出版を通してボランティアの活動を伝えるなど、参加していただく

方を増やすため、多岐にわたる活動をしています。参加者から頂くお手紙やコメントが大きな励みです。

難民キャンプで出会った方に言われた「自分たちのことが知られていない。伝えてくれ」という言葉が、今でも心に残っています。自分にできることは、現地に留まって事業をすることだけではなく、声なき声を代弁していくこと。大変な状況を知った責任、関わった以上は伝える義務があると感じ、それが今の仕事につながっています。現地で出会った人の想いと日本、そして過去と未来……。多くの人々へ伝えることで、つながるものがある。そんな想いを抱き、これからも「伝えること」に取り組みしていきます。



学生・社会人ボランティアによる無料学習支援の様子 (2019年撮影)

特定非営利活動法人豊島子ども
WAKUWAKUネットワーク

栗林 知絵子

2020年6月から池袋で外国ルーツの子どもの居場所づくりをボランティアと共に行っている豊島子どもWAKUWAKUネットワーク(以下WAKUWAKU)の栗林知絵子さんをご紹介します。栗林さんは東京都豊島区在住で、自他共に認める「おせっかいおばさん」。2004年に池袋本町プレーパークの運営に携わり地域活動を始められました。地域の子どもを地域で見守り育てるために、プレーパーク、無料学習支援、子ども食堂など、子どもの居場所を点在化し、子どもと家庭の伴走支援をしています。



栗林知絵子さん

の子どものための教育相談セミナーを開催しています。

私たちは「池袋WAKUWAKU勉強会」を毎週開催しており、そこにはネパールの子どもがたくさん参加しています。彼らにとっての居場所があったらいいなというWAKUWAKUの思いと、外国ルーツの子どもの支援をしたいというボランティアさんの思いがつながり、2020年4月から池袋で外国ルーツの子どもの居場所づくりをやるうーということになりました。現在は新型コロナウィルスの影響で、オンラインでしか実施できていませんが、彼らのセーフティネットになるような居場所をボランティアさんと一緒に実現できたらと思っています。

今、あらゆる場所で社会的孤立を抱えている方がいます。彼らに「おせっかい」できるのはそばにいる人だけです。みなさんも一緒に、隣の人におせっかいを始めましょう！

2003年、豊島区が子どもがやりたい遊びをできる限り実現できるようにプレーパークを開設するため、市民の参加を呼び掛けたことをきっかけに、WAKUWAKUの活動が始まりました。

それまで市民活動に関わりはありませんでしたが、唯一の子育て世代として「池袋本町プレーパーク」の代表となりました。プレーパークは多い日で約50人の子どもが利用し、毎日一日中過ごす子ども珍しくありません。

ある日、プレーパークの常連だった丁君から「高校に行けないかもしれない」と言われました。丁君の家は母子家庭で母親はダブルワークをしており、夕飯は一人でコンビニ弁当を食べ、小数点や分数の意味や勉強の仕方わからず、毎日お金の心配をしていました。私は目の前で困っている子どもを放っておけず、勉強に伴走してくれる大学生のボランティアを募り、夕

食を共にする環境を作りました。そして塾代10000円のカンパを募ったところ、約80人から12万円の支援が集まり、無事に都立高校へ進学できました。この時カンパでつながった仲間「地域の子どもを地域で見守り育てるための緩やかなつながりが必要だ」と呼び掛けたことがWAKUWAKU設立の契機となりました。

その後、息子の担任から「外国ルーツの子どもが学校の日本語教育だけではすべての教科を理解するのは難しい。地域で支援できないか？」と相談を受け、地域の外国ルーツの子ども支援を開始しました。支援を始めると、外国ルーツの子どもを取り巻く家庭環境が非常に厳しい状況であることがわかりました。

例えば、A君は中3の修学旅行に行かないと言い出しました。親御さんに聞いてみると修学旅行代が払えないからとのこと。お金の問題だけなら後でなんとかしようと、

旅行当日に池袋駅まで同行。先生も彼を受け入れてくださり、修学旅行へ行くことができました。A君の家族にも就学援助の案内は配布されていましたが、日本語の壁もあり、制度のを知ることができなかつたのです。その後、親御さんは担任の先生と面談し、そこで初めて就学援助の説明を受けました。時には、支援する人間と一緒に申請に行くなど、丁寧な対応が必要なのだ改めて痛感しました。

また、大学進学を希望するB君の両親はネパール人で、日本語の読み書きや会話ができませんでした。そのため、ボランティアの学生が大学見学に同行したり、教科ごとにマンツーマンで毎日受験勉強をサポートしてくれました。

しかし、家族ビザで滞っている彼は、大学の奨学金を受け取れないとわかったのです。それからは、制度について知り、活用してもらえよう行政書士を招き、外国ルーツ

シャンティからのお知らせ

設立40年を記念し、 ロゴマークをリニューアル

シャンティ設立40年を受け、団体ロゴをリニューアルし、あわせて40年特別記念ロゴを作成しました。

新しいロゴは、団体理念「共に生き、共に学ぶ」を表現しています。本を通した教育文化支援活動を体現し、これまでに蒔いた本の種から芽が出て、花開きますようにという願いが込められています。また、40年特別記念ロゴは、40年の軌跡を40粒の種で表現しました。新しいロゴマークの「芽」と連動し、現地の一人ひとりの人生の芽が出るための種をシャンティが蒔き続けてきたことを再確認するロゴマークです。一つ一つの種の形は異なり、40という数字には現れない、1年1年の苦労や努力、工夫を忘れずに丁寧に活動を続ける意思も表現しています。

新団体
ロゴ



シャンティ国際
ボランティア会
Shanti Volunteer Assoc.



40th
anniversary

40年目
特別記念
ロゴ

編集後記

ある日、3歳の息子に「お風呂入るよ」と声をかけたら「イヤ」と怖られました。こうなったらテコでも動きません。理由を聞いてみると『もっと部屋で遊びたい』と。仕方なく、リクエストに応じて遊んであげたら、すんなりお風呂に入ってくれました。相手の意思を確認し、希望を聞き入れることの大切さを学びました。(召田安宏)



2020年度 総会・対談イベントを開催

2020年度総会を下記の通り開催いたします。総会での議決権がある社員会員のみなさまには、3月初旬に資料をお送りします。総会の後、コロナ以後の地域社会について考える対談イベントを開催します。

日時: 2021年3月25日(木)

会場: 東京グランドホテル

(東京都港区芝2-5-2)

主な議題: 2020年度事業報告・決算報告について
2021年度事業計画案・予算案について

プログラム: 第一部 14時開始 芙蓉の間

2020年度定時社員総会

物故者追悼、永年会員表彰

第二部 17時開始 蘭の間 対談イベント

「コロナ以後の地域社会を考える

～宗教とNGOの視点から～」

※社員会員の方には2月下旬頃、総会の出欠確認ハガキをお送りします。

※対談イベントへのお申し込みは別添のちらしをご参照ください。

人事のお知らせ

●入職

村松 清玄 地球市民事業課 国内事業及びER補佐担当 (11/4)

●退職

中村 美和 経理課 経理担当 (9/30)

シャンティ 2021年冬号(通巻308号) | 2021年1月1日発行

発行人: 若林恭英

発行所: 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

〒160-0015東京都新宿区大塚町31 慈母会館2・3階

TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220

WEB: www.sva.or.jp E-Mail: info@sva.or.jp

編集人: 山本英里、鈴木晶子

編集・制作: 株式会社社文化工房

印刷: 株式会社サンエー印刷

[定価 550円]

当会へのご寄付は、所得税、住民税、および法人税、相続税の優遇措置が受けられます。

©Shanti Volunteer Association.

「シャンティ」は、FSC®森林認証紙にノンVOCインキ(石油系溶剤0%)で印刷しています。



川畑 嘉文(フォトジャーナリスト)

Yoshifumi KAWABATA

ニューヨークの雑誌社勤務時代に9.11を経験し、記者職を捨てて写真の道に進むことを決意。2002年、会社を退職しタリバン政権崩壊後のアフガニスタンを訪れ取材を行った。2005年フリーランスのフォトジャーナリストとなり、世界中の難民キャンプや貧困地域、自然災害の被災地で取材を行い、雑誌や新聞などに写真と原稿を寄稿している。



「ベン落とし競争」の様子。笑い声と声援に包まれました。

遊ぶ権利

途上国で取材をしていると、さまざまな「遊び」に遭遇します。風揚げやビー玉、輪回しなど懐かしいものばかりですが、時に見たこともない遊びに出会うことがあります。そんな時は年甲斐もなくワクワクするものです。

大笑いしたのがミャンマー(ビルマ)難民キャンプの図書館活動で行われていた遊び。紐でぶら下げたペンを腰の後ろ側に結び、お尻の下に垂らします。スタートの合図で競技者たちが床に置いた空のペットボトルにペンを落としこむ。先に成功させた方が勝ち。シンプルですがペんがゆらゆらと揺れてなかなか難しい。それに、その姿が不恰好でとっても愉快。

皆さんも一度挑戦してみませんか？ただし、お酒を飲んだらダメ。バランスを崩して怪我します…。



上: こちらはゴムを息で飛ばす、メンコのような遊び。下: ビー玉を使ったビリヤード。このテーブル作ったヒトです。

Shanti's
PhotoLog
ファインダーを のぞいて